

管理会計論 基礎マスター

ミニテスト第15回 解答・解説

(第18回目実施)

[時間: 15分]

当社は、次年度に行われる投資計画（A案とB案の2案）に関して、経済性を評価することになった。そこで、〔資料〕に基づき、以下の問に答えなさい。なお、解答に際して、回収期間については小数点以下第3位を四捨五入し、投資利益率については小数点以下第2位を四捨五入し、正味現在価値については最終段階で千円未満を四捨五入すること。

〔資料〕

1. 投資計画は第1年度期首に全額投資される。

2. 投資計画（A案）の概要は次のとおりである。

投資総額 98,000千円 耐用年数 5年 減価償却方法 定額法 残存価額 ゼロ

3. A案の経済的効果は次のとおりである。

(単位: 千円)

期 間	第1年度	第2年度	第3年度	第4年度	第5年度
経済的効果	23,600	29,600	33,600	41,600	31,600

4. 当社は資本コストを10%に設定しており、この場合の現価係数は次のとおりである。

期 間	第1年度	第2年度	第3年度	第4年度	第5年度
現 価 係 数	0.9091	0.8264	0.7513	0.6830	0.6209

問1

- (1) 投資計画のA案について、回収期間を計算しなさい。 $3年 + \frac{98 - 86.100}{41.600} = 3.27年$ $\times$
- (2) 回収期間法によると、A案とB案のいずれが有利であるか、答えなさい。なお、B案の回収期間は2.76年である。また、解答に際しては、不要な語句を二重線で抹消すること（以下同様）。

問2

- (1) 投資計画のA案について、投資利益率を計算しなさい。 $\frac{(160. - 98. -)}{98. - } = 12.7\%$
- (2) 投資利益率法によると、A案とB案のいずれが有利であるか、答えなさい。なお、B案の投資利益率は10.5%である。

問3

- (1) 投資計画のA案について、正味現在価値を計算しなさい。なお、キャッシュ・フローは各年度末に発生するものとする。
- (2) 正味現在価値法によると、A案とB案のいずれが有利であるか、答えなさい。なお、B案の正味現在価値は19,865千円である。